

韓国大田市 DPI 会長の訪日について

●これまでの経緯

2019年7月29日

北海学園・北海商科大学 国際交流センター長 水野俊平教授からのメール

「韓国の大田に居住する古き友人である申奭勳(シン ソク フン)氏(韓国障害者連合大田 D P I 会長、経済学博士) から連絡が参りまして、大田の姉妹都市である札幌の D P I と交流を模索したい、ついては仲介の労をとってほしいとの要請が参りました。ご存知のとおり、日韓関係は良好とはいえない状態ですが、有意義な民間の交流は継続していかねばならない、というのが申氏の弁であります。」

7月30日 こちらからの返信

「お申し出、承知しました。

具体的な交流については、後日、考えることとして、日韓関係の現状認識と必要な対応については、私も同意見です。

ただ、DPI北海道のメンバーには、ハングルに精通した者がいないのが現状です。

そのへんを宿題としつつもDPI北海道ブロック会議としては、積極的に対応します。今後とも、よろしく願い申し上げます。」

この間、申さんは日本語に堪能なことがわかり、メールと電話での日程調整などを経て

8月23日 申さん奥様とお二人で来日。

千歳空港に出迎え 我妻、山崎

ご夫妻と夕食 水野先生、我妻、山崎、西村、佐々木

8月24日

13:00～16:00 懇談会 ご夫妻、水野先生、我妻、土屋、今田
山崎、西村、永島、深瀬、白戸、石田 (JICA)

協約書締結 両代表がサインしたものを二部作りそれぞれ保管。

来年4月13～25日の障害者芸術祭に招待された。

作品をこちらから送ることも検討。

16:00～ 道庁周辺観光

17:00～ 懇親会 我妻、今田、山崎、西村、永島
小谷、深瀬、白戸、佐々木

8月25日 ご夫妻帰国



●懇談会の概要

申さん自己紹介と懇談でのお話(参加者から自己紹介と質問へのお返事など)
こちらからもDPI北海道ブロック会議の設立経緯など説明

大田DPIは2017年に始まり、2018年7月に会長になった。造幣局の研究者。17歳の時に筋ジストロフィーになり、13年前から車いすを使っている。20年前に結婚、息子さん一人。30年前天理大学に通い日本語を話せるようになる。日本語文献の翻訳などはしているが、会話は久しぶり。

大田DPI 会員86人 うち51人障害者 役員3人 後援会がある。

障害者に冬電気マットを配布 人権委員会を毎月開催

親睦のため、野球観戦、映画鑑賞など スピーカーとして会員を派遣

精神障害者のメンバーはいない。韓国は発達障害がメインになっている。

精神障害者を含めて障害者はバス・地下鉄は無料、列車・飛行機は半額。

障害者手帳ではなく、カード

政治的なことは問題ではなく、壁を壊すことが大事。民間の交流が必要。

障害者雇用率に応じ納付金。作業所への支援若干、販路は自分で開拓。

日本にならって自立生活センター（政府の支援はない）

障害に対して寛大ではない、脱施設は円滑ではない。

教育は統合とはいえ、支援学級がある。

国連権利条約を地方の人はよく知らない。研修、勉強会をしている。来年からは市の支援。

国内法、差別禁止法できたが、効果はまだ。

養護学校あるが強制はない。とはいえ、周囲からの圧力で養護学校に行くことになってしまう。両親が学校を選べる。学校は拒否できない。支援がつく。

深瀬さんのコミュニケーション支援法を韓国ではまだ見たことがない。

障害者の市議のためエレベーター作り、良くなっていく。

●協約書締結。今後相互に訪問し交流する。

参考資料・基礎情報

●大田（テジョン）広域市の概要（札幌市ホームページより）

2010年に札幌市との姉妹都市提携

大韓民国5大都市の一つ。「大田」とは広大な土地を意味しています。韓国のほぼ中心部に位置しており、南北をつなぐ高速道路と鉄道が交差する交通の要地です。

1993年には大田世界博覧会（科学エキスポ）が開催され、韓国随一の科学技術都市としても知られています。

面積：540 km²

大田広域市は韓国のほぼ中心にあり、半日で国内のどこへでも移動することができます。

ソウルからKTX（韓国高速鉄道）で南にわずか1時間の距離です。

人口：約153.2万人。（2015年現在）

ソウル、釜山、大邱、仁川に次ぐ韓国5番目の都市です。

気候：四方を山で囲まれた盆地地形で、はっきりとした四季があります。春は温かく空気が澄んだ日が多くとても快適で、夏は蒸し暑い気候で雨が多いです。秋は涼しくて快晴の日が多く、冬はシベリア気団の影響で寒くて乾燥しており、雪はあまり降りません。

●韓国DPI

DPIは世界を5ブロック（アジア・太平洋、ヨーロッパ、アフリカ、ラテンアメリカ、北米・カリブ）に分け、このアジア・太平洋ブロックの中に東アジアブロックがあり、韓国・日本・中国・モンゴルが持ち回りで2年に一度会議を開催している。

韓国DPIは、国内6つ地域連盟（地域ブロック）となっており、ソウルDPI、仁川DPI、京義DPI、大田DPI、江原DPI、全北DPIの6つの加盟団体で、すべて自立生活センターで構成されています。そして、それぞれ会長、副会長が存在する日本でいえば地域ブロックとなっています。